

【テーマ4】 和歌山大学教職大学院

「ブレンディッド・ラーニングによる教員研修履修証明プログラムの開発」

調査の概要

◆課題認識

・これまで本学が取り組んだ「初任者研修履修証明プログラム」「出前講座」をより発展させ、継続していく。
 ・「学校教育現場の多忙化」・「研修機会の地理的・時間的問題」・「個々の教員の研修ニーズへの対応」等。

◆調査研究の目的

・遠隔同時双方向講義、Web教材による自学方式、対面・集合形式の研修方法の最適化を図り、科目群を構成し、履修証明プログラムを開発する。

◆調査研究の方法

・令和2年度に実施された教職大学院の講義及び研修等（教員免許状更新講習を含む）を、3つの形態（オンデマンド、オンライン、対面・集合）の研修講座に再編・開発し直し、県内教員向けに試行実施し、各講座の受講者から評価を得る。

◆調査研究校

・第一期（5講座）、第二期（5講座）を実施。各講座は5コマで構成。

◆現状

全10講座合計で、約70名が受講済み。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①3種の受講形態（オンデマンド研修、オンライン研修、対面・集合研修）を組み合わせた研修講座の開発。
- ②研修講座のベストミックスの試行（どの形式の研修をどの程度、どの順序で行うのが効果的か）
- ③和歌山県内の全ての小学校・中学校教員を対象とした講座の設定及び教育現場の要請に応じたタイムリーな研修講座の配置。
- ④学内外における遠隔研修のコンテンツ開発や受講者に向けた遠隔研修受講の技術的支援の徹底。

学びのネットワーク



県内の先生方を対象に、教職大学院の講義を体験受講できる機会となります。1講座=90分×5回を基本として、オンライン（リアルタイムでの遠隔講義・演習を1～2回程度）・オンデマンド（個人での映像視聴受講）・学内による対面講義（1～2回程度）を組み合わせ実施します。

◆成果

・教職大学院講義等を3種の受講形態（オンデマンド、オンライン、対面・集合）にカスタマイズ・リビルドする方法の確立、研修効果を向上させるための配慮（メール等での事前連絡、事前交流等）
 ・3種の受講形態の組み合わせパターンの確立（第一期では、様々なパターンを試行したが、オンデマンドを2コマ、対面2コマ、オンライン1コマでの形式が最も評価が高かった。）
 ・受講者からの評価：教育現場のニーズに対応した研修形態・研修内容については受講者全員から高い評価（肯定的評価を含む）を得た。また、研修に際しての地理的・時間的な制約が緩和できること、教職大学院へのハードルが低くなること、同じ学習テーマを抱える教員間のネットワークの場となること等についても高評価であった。

今後の課題

- ・大学院の単位化（専修免許状の取得）に向けた系統的な研修カリキュラムの構築
- ・講義配信システム面の工夫・改善によるより双方向で効果の高いオンライン・オンデマンド研修の拡充（教員の多様な受講スタイル／地理的・時間的な障壁への対応を含む）
- ・教育現場の研修ニーズの把握と大学教員の持つリソースとのベストマッチング